

ふるさと奥尻通信

平成25年3月26日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

春の訪れ。名残雪にしては大雪だった3月下旬、もうジョンバをしまってもよさそうです。新年度への準備をと思いつつ、結局身の回りの片付けで満足してしまう…。けれどやっぱり春はいいなあ。

特集 奥尻と映画① 男はつらいよ寅次郎かもめ歌

奥尻を舞台にした映画がいくつか知られています。今回は「男はつらいよ寅次郎かもめ歌」です。昭和55年(1980)公開のシリーズ第26作で、中盤の秀作とされる一作です。

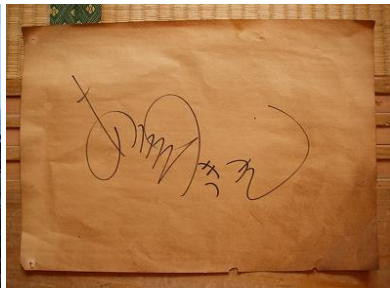
追分大会で賑わう江差でバイ※をしていた寅次郎(渥美清52歳)、馴染みの仲間、「しっぴんの常」と水島常吉が、腸閉塞で死んだことを知り、故郷奥尻島へ墓参へいくことに。

第二大函丸で奥尻港に着いた寅次郎、常吉の娘が住む家を訪ねます。ロケ場所は空港に向かう坂を下ったT字路先の民家。途中、青苗地区の古い漁村の街並みが映り、津波によって無くなった懐かしい風景に、郷愁を覚えます。娘のすみれ(伊藤蘭25歳)は川尻水産のイカ加工場の事務所に務める函館帰りの女。どうも訳ありな風体。

寅次郎は常の墓参に来たことを伝え、二人で賽の河原へ向かいます。荒涼とした石積み建つ卒塔婆に手を合わせ、石を積みみます。この石積みも、津波で流され、現在はやや小規模になっています。



現在の賽の河原



渥美清サイン(まつや所蔵)

「ホテル奥尻」(劇中)に投宿した寅を訪ねたすみれは、土産にスルメと昆布?を渡し、東京で働いて夜学に行きたい旨を伝えると、寅はすっかり親代わりに。なんとそのまま上京し、誘拐犯に間違われる一幕も。

函館から大工の菊地貞夫(村田雄浩)が島を訪ねるも、すみれは離島したあと。ここでも青苗の街をバイクで駆けるシーンで、懐かしい風景を見られます。その後はるる東京まで追ってきた貞夫はすみれに求婚し、めでたくゴールイン。

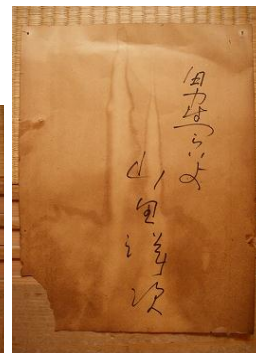
寅は親心と男心を抑えつつ、ぶいっと商売の旅へ。年末年始のバイをしていた徳島で、加工場のおばさんと再会したのですが、なんとイカが豊漁だったので四国まで旅行に来たとのこと。バスには「鳴門・阿波巡礼ツアー北海道奥尻島御一行様」とありました。なんとも景気のいい話ですね。

劇中に見られる青苗のロケーションには、かつての「食堂みかさ」、「晴山精肉店」、「菊地旅館」などが映り込んでいました。これらを青苗の街並み復元に役立てることができそうです。また、ロケ時は、町民がエキストラで多数出演し、撮影に協力しました。ロケ隊も、その後の打ち上げを奥尻の飲食店で行ったといわれています。撮影スタッフと町民の温かい交流が想像されますね。

※啖呵売(たんかばい)のこと。縁日や路上販売などで品物を巧みな話術で売りさばく手法。他の露天商や大道商人らを含めて的屋(てきや)と呼ばれる。スラスラと述べる文言を口上といい、聞くに心地よい。



広報おくり(昭和55年)より



山田洋次サイン



映画ポスター

☆クレジット☆

監督/助監督	山田洋次/五十嵐敬司
脚本	山田洋次、朝間義隆
ロケ地	北海道奥尻島、江差町、徳島県
公開日	1980年12月27日
上映時間	98分
動員数	188万9000人
配収	13億7000万円

○キヤッチコピー○

たとえば、野に咲くすみれの花のように俺ア あの娘が可愛いさ。決して惚れたんじあねえ。ホントだよ、さくら。



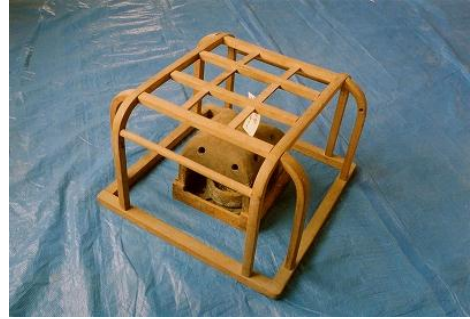
かつてのT字路(昭和57年)

水仕事をする時、指先がすぐにしゃっくくなります。素手であればなおさらです。今ではゴム手袋がありますので、あかぎれや切り傷から手を守ることが出来ます。ここで、ちょっと80年ほど時代を遡ってみましょう。右中段の連載「昭和奥尻生活詩」を読んでみてください。イカが付かなくなる時間帯になって、船上の坪谷少年があんかを抱いて暖まっている情景です。手足だけではなく体もすっかり冷えていたことでしょう。この一息つく時間に、少年はふと学校の授業で教わるアルファベットを思い出します。燃えかすの炭でゴシゴシと綴る様子を讀者は思い浮かべることが出来るでしょう。眠い目をこすりながらも、授業を思い出して復習する勤勉な生徒の姿です。

あんか(行火)は携行用の炭入れですが、その歴史は古く、遺跡から出土する事例では、450年前の戦国時代にまでさかのぼります。それは「ばんどこ」と呼ばれるもので、蓋が付いた格子状の箱型の焼き物です。この中におこした炭を入れて暖をとります。近代の古民具では、火種を入れた容器(ばんどこ)に布団を掛けてこたつとする例も知られています。



あんか(行火) 稲穂展示室



昔のこたつ(中央の容器がばんどこ)



大正時代のイカ釣り漁船

月刊 奥尻のつり 3月号

今年は今のところサクラマスがさっぱりです。岸寄りしなかったのはどうしてでしょうね。不思議です。防波堤の穴釣りをすれば、そこそこのサイズの根魚が釣れるようですよ。手軽にやってみてはいかが？ただし、テトラの上は危険ですから場所を選んで、十分に注意してください。船ではエゾメバルやヤナギノマイなどが網にかかっています。残念ながら投げ釣りでは釣れない深海にいますので、なかなか手に入らない魚です。そういうときは、ちょっと港をフラフラして、顔見知りの船のお手伝いでも。そうすれば駄賃代わりに分けてもらえますよ。エゾメバルは煮付けが一番。間違いなく美味しい！食後は仕掛けの準備ですね。もうすぐ始まる春のシーズンにむけて、竿、リールともにしっかり準備しておきましょう。

昭和奥尻生活詩 沖で 3回

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

物暖火
 。を() ※ a 板アあ眠あば鳥 沖
 中とのあん b にルんむんん賊 で
 になるこん c 書フくたくのが
 炭たどくわ ずいアわいわ中薄
 をめ。わ らてベッ炭 だいでく
 入の船 っみッ炭 い になつ
 れ、上あ とたトで いてた
 て粗にん 書 いた だら 坪
 お製携か いた 谷
 の行(行 雄
 。焼し 行 雄
 きて

に入書るきての内り洋が感
 。る室と時い学容ま研完想第
 予に効間ま年をす修成文第三
 定学果にすと見のセしコ十三
 で芸的短。もまでンまク回小
 す員で時読力す、タしクル中
 の選す間書作とごーたー小
 で定。では揃、覧図。ル中
 おの春も日いそ下書文。生
 楽新に継常とれさ室集文。生
 し刊は続のなぞいには集読
 みも図す空つれ。あ海録書

読書感想文まとまる



集録風景

ちしけし行るた言にし札貌る
 遠まのたわとC葉完、をが奥島
 しい熱がれとDを成可島を見人
 いN演、たいを録さ愛ののえか
 でGに皆集う流音せら大てる
 す連、さ録こしたよしいとま、
 ね発思んにとて、音う絵子しう
 。わの立で、声で札供たう作
 完ずプちす楽声で札供たう作
 成笑口会。しをすとが！やして
 がっ顔い先む入。と担読く
 待て負ま日かれ島も当み全

奥尻かるた制作中！

年度末、忙し。年明けの風邪
 以降、体調を崩してぐずぐず
 していました。春の訪れとともに
 スッキリしたいところです。それ
 から、とうとう私も30代に入
 りました！さらば青春？いやい
 や、これからが飛躍成長の重要
 期間です。良い刺激を受けて羽
 ばたきたいと思えます。今後と
 もよろしく願いいたします。
 奥尻かるたをみんなで楽しみま
 しょう！（お手つきした）。

新米之記録(編集後記)

しき土けのすちで考せず整れ
 まい曜る整とのきえン。備あ昨
 す。日方備大方てカ今をい年
 よには作変、花いを年四研度
 る現、業助分のみ種は月修着
 し地五にかけ苗すかヒかセ手
 くま月ごりてを。らマらんした
 おで以協まい余ま育ワ再タ
 願お降力すた分たてリ開ー
 い越のい。だに、よとしの
 いし木た花けお移うホま花
 た下・だ壇ま持植とウ壇ふ

今年も花壇整備します



東風泊海岸(昭和51年)